

令和7年（2025年）12月25日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和7年度（2025年度）病害虫発生予察注意報第6号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

令和7年度（2025年度）病害虫発生予察注意報第6号

農作物名	トマト
病害虫名	トマト黄化葉巻病
病原ウイルス	トマト黄化葉巻ウイルス
	<i>Tomato yellow leaf curl virus</i> （以下、TYLCVとする）
媒介昆虫	タバココナジラミ

- 1 発生地域 冬春トマト栽培地域
- 2 発生時期 1月上旬以降
- 3 発生程度 平年比 多

4 注意報発表の根拠

- （1）12月に県内の冬春トマト栽培ほ場（7地点）で実施した巡回調査では、トマト黄化葉巻病の発病株が前月より大きく増加している。12月のトマト黄化葉巻病の発病株率は、5.3%（平年2.2%）で平年比多の発生であった（図1）。過去15年の12月の巡回調査結果と比較すると、黄化葉巻病が多発した令和3年度（2021年度）に次いで2番目に多かった（図2）。
- （2）病害虫防除員の報告（3地域）によると、12月の黄化葉巻病の発生は平年比やや多～並、タバココナジラミの発生は平年比やや多～並であった。
- （3）12月に県内の冬春トマト栽培ほ場（7地点）で実施した巡回調査では、タバココナジラミの寄生葉率0.7%（平年2.6%）と平年比少の発生であった（図3）。しかし、福岡管区气象台が12月18日に発表した九州北部地方1ヶ月予報によると、気温は平年より高い予想であり、温度の高い施設内では、TYLCV媒介虫であるタバココナジラミの活動・増殖に好適な条件となる。

5 防除対策

施設内でのトマト黄化葉巻病の感染拡大を防ぐには、タバココナジラミの防除と発病株の適切な処分が重要であるため、以下の対策を徹底する。

- （1）ハウス内の開口部（サイド、谷部など）には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを設置する。すでに設置しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間がないか点検し、必要に応じて補修する。
- （2）施設内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類の早期発見、初期防除を徹底する。既にコナジラミ類の発生がみられるほ場では、継続した防除を行う。
- （3）薬剤防除を行う場合、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテー

ション散布を行う。なお、薬剤の選定にあたっては、令和7年（2025年）11月6日付発生予察技術情報第44号「タバココナジラミのバイオタイプ及び成虫に対する各種薬剤の殺虫効果」（<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/294705.pdf>）を参考にする。

- (4) 発病株は重要な伝染源となる。見つけ次第直ちに抜き取り、ハウス外に持ち出して適切に処分する。また、TYLCV抵抗性品種であってもウイルスを保毒し、伝染源となるため、感受性品種と同様にタバココナジラミの防除を行う。
- (5) ハウス内部の雑草は、タバココナジラミの生息・増殖場所となる。栽培期間中は定期的に除草する。

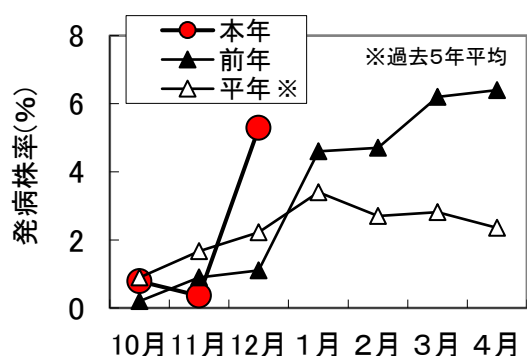


図1 黄化葉巻病の発病株率の推移

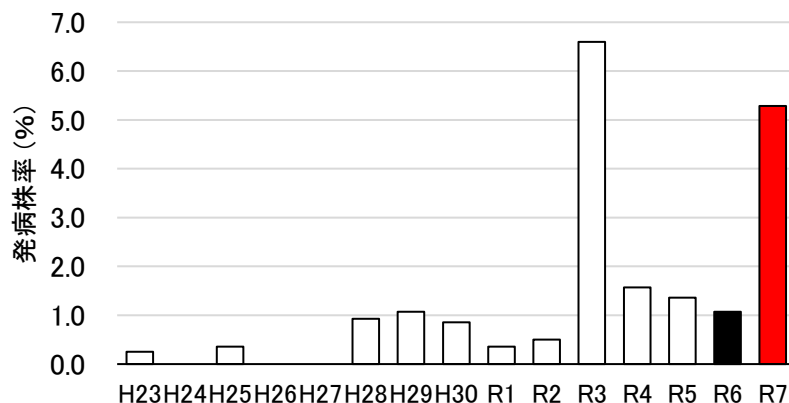


図2 過去15年の12月の巡回調査における黄化葉巻病の発病株率

※各年7～8ほ場の平均。抵抗性品種と感受性品種の比は年により異なる。

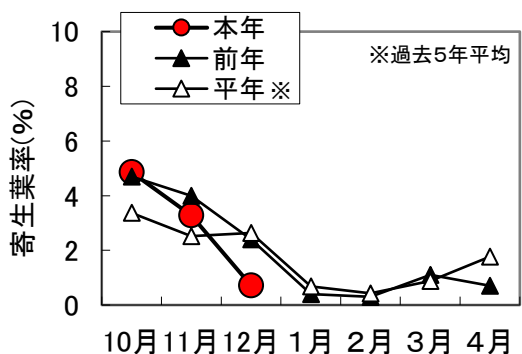


図3 コナジラミ類の寄生葉率の推移



写真1 黄化葉巻病発病株
(令和7年12月撮影・抵抗性品種)

熊本県病虫害防除所
(農業研究センター生産環境研究所内)
担当：永野、肥後 TEL：096-248-6490